

ごみを減らそう!!



ワンガリ・マータイさんのメッセージを軸にした本「もったいない」

平成17年版「循環型社会白書」環境省編「もったいない」を軸に、そして世界に一つの産業が記されている。



この4月、東京で開催された3Rイニシアティブ閣僚会合で配布されたふるし。『もったいない』(下)「MOTTAINAI」(上)が染め抜かれている。

CONTENTS

- ◆特集 1 ②
秘密書類リサイクルを辿る
- ◆特集 2 ④
京都に生きる3Rの心と技
- ◆NEWS ⑥
京都市ごみ減量推進会議・平成17年度通常総会開催 ほか
- ◆行政からのお知らせ ⑧
ルールを守って資源ごみを出しましょう
- ◆Report ⑨
高島屋京都店の紳士スーツリサイクル
- ◆会員探訪 ⑩
株式会社 ヘルプ
- ◆Series 「やっえます、わたしの住む町で、ごみ減らし」 ⑪⑫
京極地域ごみ減量推進会議(上京区)
朱雀第二学区地域ごみ減量推進会議(中京区)
桃山南ごみ減量推進会議(伏見区)
福西ごみ減量推進会議(西京区)

日本には今、「もったいない」の風が吹いている。きっかけは今年2月、ケニアのワンガリ・マータイさんの来日。

04年ノーベル平和賞に輝いたマータイさんは、「もったいない」という言葉に出会い、感銘を受けた。環境問題を解く合言葉として掲げてきた3Rのところが凝縮されていたからだ。「もったいない」は「MOTTAINAI」とも表現され、世界の共通語にしようとする動きもある。

ある商社は収益の一部がマータイさんの「グリーンベルト運動」に寄付される仕組みで「もったいない」ブランドを誕生させた。物を大切に使い捨てを嫌う日本の生活習慣に根ざしたこの言葉が循環型社会形成の後押ししてくれるものと期待したい。(本誌4・5ページに関連記事を掲載)

秘密書類リサイクルを追う

個人情報保護に配慮した再生システム

浅利美鈴（京都大学環境保全センター研究機関研究員）



古紙卸売業の現場で説明してくださる澤田氏

個人情報の保護は必須だけれど、できれば有効にリサイクルにまわりたい…そんな思いを持ちながら、足踏みされている方もおられるのでは？
そこで、京都市ごみ減量推進会議「秘密書類リサイクル事業」の一端を担っておられる京都府紙料協同組合秘密処理リサイクル事務局の澤田修一氏を訪ね、そのお話などをもとに秘密書類リサイクルについて整理しました。

みなさんから回収した古紙は、しっかりと循環

日本の紙・板紙の総生産量は年間約3000万トン。これはなんと、国民一人あたりの250キログラムに相当します。その紙生産を支える原料として、日本では古紙が大きな役割を果たしてきました。現在、全原料の約60%（年間約1700万トン）が古紙とのこと。みなさんが家庭やオフィス、学校で回収してリサイクルに出している古紙が、しっかりと紙循環の一端を担っている訳です。

「燃やすルート」の秘密書類

ところが、最近、「個人情報保護」が社会的に大きく取り上げられるようになり、古紙の取り扱いを慎重に…と、シュレッダーで細かく切断するところが増えています。その場合、リサイクルするには、禁忌品（粘着テープ、感熱紙、裏カバーボンなどが混入している）も見分けがつかない、かさばる等の問題が多いため、焼却廃棄のルートにまわることが多いと考えられます。では、どうすれば、安心して秘密書類をリサイクルにまわせるのでしょうか。

紙リサイクルの流れを再確認

まずは、紙リサイクルの一般的な流れをみてみましょう。古紙回収・リサイクルは、大きく、古紙回収専門業者→古紙卸売業（製紙会社）で構成されます。みなさんが回収場所に出した古紙は、回収専門業者によって古紙卸売業に持ち込まれ、そこで種類別にわけられ、用途に応じて製紙会社に引き取られていきます。

リサイクル技術の現状（一般的な製紙会社）を、図1に示しました。古紙の種類によって古紙用製品は決まってきます。私たちの正確な古紙分別がいかに大切であることがわかります。

ちょっと待ってシュレッダー

シュレッダーされた秘密書類については、先述の通り、輸送・技術面からリサイクルには不適とされてきました。最近受け入れる製紙会社も出てきていますが、排出企業の中には、焼却処分に戻しているところも多いと考えられます。従って、可能な限りシュレッダー

状況に合わせて再生の道を選択したい

まずは、秘密書類として分類する筆を極力限定し、なるべく多くの紙を秘密文書以外の古紙とともに排出するようにはしましょう。次に、秘密書類についても、シュレッダーにかけずに、そのまま信用できる古紙回収業者にひとことでもいってほしいことが重要です。

京都市ごみ減量推進会議では、98年より秘密書類リサイクル事業を進めており、絶望めされた秘密書類を、排出された当日に、そのまま製紙工場の溶解釜に投入し、段ボール板紙に再生するルートを構築しています。

また、民間企業の中には、専用のシュレッダー車で排出先まで出向く、その場で切断し、製紙業者にまわすサービスもあつた。ぜひ、みなさんのニーズにあつたりリサイクルルートを確立していただきたい。

↑にかけず、リサイクルルートを確保することが重要となります。秘密書類リサイクルの例を図2に示しました。

秘密書類 リサイクルの流れ

① 秘密書類の積み込み

指定場所で回収トラックがダンボールごと積み込み。



② 製紙工場へ到着 車ごと重量を計算

③ 箱のままベルトコンベアに



④ 溶解釜に投入

釜の中で書類が溶かされる。
再生できないとじ金具などは除去される。

⑤ ダンボールの板紙 (ロール)に再生



図1 リサイクル技術の現状

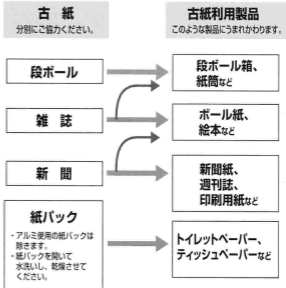


図2 シュレッダーされた秘密書類



■問い合わせ

京都市ごみ減量推進会議

秘密書類リサイクル実行委員会事務局 (京都市環境局 地球環境政策課 資源型社会推進課内)

TEL: 075-222-4091 FAX: 075-213-0453

参考: 全国製紙原料商工組合連合会 URL: <http://www.zengenren.com/>

京都に 生きる

2Rの 心と技

「物方(ものかた)」「仏光寺(ぶつこうじ)」は、町並み正統派の京都を代表する老舗の「物方(ものかた)」「仏光寺(ぶつこうじ)」は、町並み正統派の京都を代表する老舗の



「物方(ものかた)」「仏光寺(ぶつこうじ)」は、町並み正統派の京都を代表する老舗の



「もったいない」と京都の街

アフリカの植林活動に取り組み、2004年にノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんの発言をきっかけに、「もったいない」という日本語が大きな注目を集めている。「もったいない」とは「物体」のことと、「物の本体」という意味がある。だから「もったいない」といふ言葉は、「物の本来の価値が生かされていない」状態を指すのである。今年7月のヒットでは、小泉首相も「3R (Reduce「発生抑制」、Reuse「再使用」、Recycle「リサイクル」)を語表してこの言葉が日本語の「もったいない」だとして、世界に資源の有効利用を呼びかけた。

歴史と伝統の街、京都には「もったいない」を生んだ日本の文化がたっぷり詰まっている。例えば、日本文化の代表的存在である着物。西陣織・友禅染に代表されるように、京都には多様な、着物文化が息づいて

ている。また、京都は多くの伝統工芸師が活躍する街でもあり、伝統の業が現代にも受け継がれている。実は、こうした京都の姿の中には、この発生抑制と再使用、すなわち2Rを実践した社会の一つの実像が隠されているのである。

着物に宿る2Rの心

「2Rを減らすNo.28」でも紹介されていたが、最近、京都ではリサイクル着物がブームとなってきた。街を歩いていても、着物を着た若者の姿を目にする機会が増えた。

着物は日本の伝統的な衣服であるが、戦後は着られる機会が少なくなり、家庭内でも着物の手入れの仕方や着方などが伝承されなくなってきた。しかし、着物はほとんどが手織りや手染めをして作られた一点もの。特に女性の場合は美しい柄のものが多いため、着られなくなった後も捨て

京都R 副代表 野村 直史



「2Rを減らすNo.28」でも紹介されていたが、最近、京都ではリサイクル着物がブームとなってきた。街を歩いていても、着物を着た若者の姿を目にする機会が増えた。





「京都の文化」を大切にする「京都地」は、従来の伝統的な工芸品の制作だけでなく、現代の生活に合わせた新しい商品を開発している。



新商品の開発や小売の「京都地」は、従来の伝統的な工芸品の制作だけでなく、現代の生活に合わせた新しい商品を開発している。

職人の技と2R

職人の手から生まれるものは、商品というよりは一つの作品である。自らの手から生み出された作品へのこだわりは、修理・修繕という愛を結び、使い手に長い間変わるごのない満足を与えてきた。こうした職人の仕事も、2Rという側面から見直すことが出来る。昔ながらの染め直しの技術

を活かし、洋服などの染め直しに取り組み伝統士芸師。一本一本検品した上で、目の目にかたや傘だけを店に並べ、そこには修理も手がける染屋の主人。放置された自転車車を回収・修理し、再び京都の街へ送り出す自転車修理士。

一見寿命が尽きたかに見えるもので、見事な技により、輝きを取り戻す。職人の手により、「もったい」が余すことなく発揮される瞬間である。

京都と環境の架け橋「京路地」

学生を主体とする市民団体「京都地」では、京都の文化を2Rの側面から見定め直し、ごみの減量につながるような商品の情報をウェブサイト「京路地（みやこびと）」にて発信している。「京路地（みやこびと）」にて発信している。「京路地（みやこびと）」にて発信している。「京路地（みやこびと）」にて発信している。

京都Rへの問い合わせ

京都大学環境保全センター内
京都R事務局
Tel&Fax : 075-753-7709
e-mail : info@miyacology.com
ホームページ : 京路地
<http://www.miyacology.com>



「京都地」が作り出した京都の文化の心

「京都地」が作り出した京都の文化の心



「京都地」が作り出した京都の文化の心

「京都地」が作り出した京都の文化の心

京都市ごみ減量推進会議・平成17年度通常総会開催

京都市ごみ減量推進会議の平成17年度通常総会が10月2日(木)、平安会館において開催され、平成16年度の事業経過が報告され、収支決算報告が承認されたことと、平成17年度の事業計画を決定した。同時に収支予算の決定などの審議が行われた。

なお、高月純会長が京都市立大学定年退官と石川飛五先生への赴任に伴い、執行体制の強化のため規約を一部改正して会長代行委員を設置することとなり、地域活動実行委員会の山内寛委員長が就任した。また、京都市ごみ減量センター推進友の会副会長の高橋かつ子氏と京都青年会議所副理事長の人見康裕氏が新たに理事

平成17年度の事業計画

- (1) 普及啓発実行委員会
 - 会報誌の発行、ホームページの運用
 - ごみ減量啓発イベントへの参加
 - 企業向けごみ減量実践講座の開催
 - 買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン
 - こどもワークショップ開催
- (2) ごみ減量事業化実行委員会
 - 再生紙利用促進事業
 - 秘密書類リサイクル事業
 - 市役所前フリーマーケットの開催
 - リユースびん再利用システムに向けた取組
 - 事業系ごみ減量に向けた取組支援
- (3) 地域活動実行委員会
 - 地域ごみ減量推進会議の拡大
 - 廃食用油回収拠点の拡大
 - その他の取組

に就任した。

総会の後半では事例発表が行われ、「地域ごみ減量推進会議・活動レポート」の紹介に続いて各区分(地域ごみ減の代表者10名が活動状況についてリレートーク形式で報告を行った。独自の取組が成功している事例や逆に苦労している事例などの紹介が続き、「他の地域ごみ減の活動内容を知ることができて参考になった」の声が聞かれるなど、地域ごみ減同士が情報交換を行う絶好の機会となった。

最後にリユースびん事業化活動小委員会の遠藤明子氏が活動状況の報告と事業への協力依頼を行い、総会を終えた。



地域活動の情報を網羅した「活動レポート」が完成

現在市内には74の「地域ごみ減」があり、それぞれが積極的かつユニークな取組を進めているが、地域ごみ減同士が情報交換を行う機会が少なかった。このため、各地域ごみ減の具体的な活動内容を知ってもらうとともに地域ごみ減同士の交流・連携を図ることを目的として「活動レポート」の作成に昨年9月から取りかかり、半年がかりで完成した。

作成した事務局田中真砂世さんは活動紹介シートの記入やデータの提供をお願ひし、やっとまとまりという目に見えるかたちになりました。改良の余地はあるかと思いますが、ぜひ活用していただきたいと思います」と語る。

中身は盛りだくさんで、各地域ごみ減の活動内容の紹介を中心に、使用済みびんがら油の回収についての資料や京エコロジセンター「活動支援便利用ガイド」さらに申請書などの書類も添付されている。

さっそくこのレポートを参考にしながら他の団体の工夫を取り入れている地域ごみ減もあるようだ。今後の取組を進めるうえで活用したい。



まんがの好きなチビッコ集まれ!

こともちが毎日の生活の中から出るごみの現状について学び、ごみを減らすためにはどうすればいいかを考え、そしてそこで得られた知識を生活の中で活かすことを目的とした、こどもワークショップ「まんが」を描いてごみを減らそう!が開催される。

講師はもちろんハイ・ムーン氏(高月純会長)。今年は8月10日(水)から16日(火)まで高麗屋京都店1Fゆとりらむにおいて開催される「びびくり!エコ100選2005」も「もったいない!」からはじめるやさしい暮らし」の中のイベントとして、8月13日(土)に午前11時から午後2時から2回、7Fイベントルームにおいて行われる。(主催:びびくり!エコ100選2005実行委員会)

ごみ減量事業化実行委員会開催

6月26日(火)にごみ減量事業化実行委員会が開催された。松本明光委員長(事業所・商店会等のごみ減量小委員会幹事)、山内寛会長代行(再生紙推進事業小委員会幹事)、遠藤明子委員長(リユースびん事業化活動小委員会幹事)、中村寛史氏(市役所前フリーマ小委員会・有田幹事代理)及び事務局が出席し、松本委員長のおいさつの中で、主に今年度の活動内容について議論され、今後さらに取組を強化していくことを確認した。

今年度から京エコロジーセンターも一緒に エコロジーはエコノミーごみ減量実践講座

ごみ減量・企業の環境対策などをテーマに多彩な顔ぶりで講師を招き好評を得てきた「エコロジーはエコノミーごみ減量実践講座」が今年も開催される。なお、今回から新たに京(みやこ)エコロジーセンターが主催者に加わり、第1回目のパネルディスカッション「3Rを広げよう!」~もっともったいないを~は開催会場となる。このパネルディスカッションでは、循環型社会・持続型社会形成のキーワードである3R(リデュース=発生抑制、リユース=再使用、リサイクル=資源活用)の流れをどのように受け止め、そして推進していくのかについて、市民・企業・行政が話し合う。また同時に行われる展示には、先進的な取組を続けている企業や市民団体が参加する。また、03年からはじめた見学会も実施。7月14日(木)第1回は福田金属箔粉工業を27名が視察した。8月25日(木)は、熱処理ライン鉛シスを稼働中のサンコールの見学を予定している。



福田金属箔粉工業を見学

循環型構築に向け、考え方や事例に学ぶ2005年のプログラム

第1回「3Rを広げよう!」~もっともったいないを~

パネルディスカッション形式で実施
講演:京エコロジーセンター館長 高月 誠氏
パネリスト:環境省 廃棄物・リサイクル対策部企画課 島村知寿氏
京都市 環境局 循環型社会推進課 課長 瀬川春信氏
京都市ごみ減量推進会議 リユースびん事業化活動小委員会 遠藤明子氏
帝人ファイバー(株)取締役営業企画室長 鈴岡章貴氏

※同時に帝人ファイバーをはじめ、京都でリサイクル事業を行う企業や市民によるリユース活動を紹介する展示も行う。

開催日:平成17年8月3日(水)午後1時30分~4時

会場:京エコロジーセンター1階 シアター

第2回「京都市の地球温暖化対策条例」と「京都市の環境会計」

講師:岡田憲和氏(京都市環境局地球温暖化対策課長)

講師:北村島文氏(京都市環境局環境管理課長)

平成17年9月8日(木)午後1時30分~4時 開催

第3回「エコデザインでごみを出さない素敵なものづくり」

講師:益田文和氏(東京造形大学教授)

報告:「生分解性プラスチックの魚箱による資源循環京都モデル」北村康二氏

京都市産業観光局 産学連携推進課 担当課長

平成17年10月13日(木)午後1時30分~4時開催

第4回「KESの手法でごみ減量の成果をあげよう」

~ごみを減らすために環境マネジメントシステムを導入しよう~

講師:京のアジェンダ21フォーラムKES認証事業部

アシスタントコーディネーター 荒川佳夫氏

KESを実践している企業または団体(詳細未定)

平成17年11月10日(木)午後1時30分~4時開催

第5回「有害化学物質をどう扱うか?」(仮)

講師:酒井伸一氏(京都大学環境保全センター教授)

平成18年2月9日(木)午後1時30分~4時開催

※第1回をのぞき、第2回~5回目の開催会場は、京都商工会議所2階教室です。
開催時間は午後1時30分~4時です。

最近のうごきから

「北区民春まつり~ふれあいまつり」

6月5日(日)、北区船岡山公園にて行われた「北区民春まつり~ふれあいまつり」に、京都市ごみ減量推進会議は、京都市ごみ減量めぐくん推進友の会とともにブースを出展した。

リユースびん活動交流会2005 「3年目、めざすもの、めざしたいもの」

リユースびん事業化活動小委員会が6月16日(木)に京都府小売酒販組合連合会中京支部で活動交流会を開催し、昨年度の調査結果の報告や今年度の展望についての説明などを行った。今年度は、事業に賛同する「リユースびんサポーター」の募集などを行い、リユースびん流通システムの構築に向けての取組を強化することと。

第19回牛乳パックの再利用を考える全国大会

8月6日(土)から7日(日)にかけて大阪府で開催される「第19回牛乳パックの再利用を考える全国大会」に、再生紙推進事業小委員会の幹事でもある山内会長代行が参加する。

めぐくん推進友の会



リユースびん活動交流会の開催



ルールを守って資源ごみを出しましょう

現在、京都市では、資源として有効利用できる空き缶・空きびん・ペットボトルの分別収集を行っており、市民の皆様から分別収集した資源物は、横大路にある南部資源リサイクルセンター及び横大路学園で選別処理をした後、リサイクル業者に引き渡しています。

市民の皆様の御協力により、空き缶・空きびん・ペットボトル以外の異物の混入は、年々少なくなってきていますが、それでもなお、化粧品やびんやガラス製食器、陶磁器などが混入されています。

ひどい場合には、注射針などの感染性のある医療系廃棄物や包丁、はさみ、針などのたいへん危険なものまで混入されており、選別作業員がけがをするなどたいへん危険な状態にさらされる場合があります。更には、ベルトコンベアなどの機械設備の故障や本来ならリサイクルできるものがリサイクルできないなど、こうした異物の混入がリサイクル事業にたいへん悪影響を及ぼしております。

皆様には、資源ごみを出す際の注意事項について、今一度、御家庭や地域で呼びかけていただき、空き缶・空きびん・ペットボトルを出されるルールを守っていただきますようお願いいたします。

▶▶▶ 空き缶・空きびん・ペットボトルを出す時の注意点 ◀◀◀

△ 資源ごみはこれらのことを守って出してください。



ペットボトルや空きびんのキャップは、はずして家庭ごみに出してください。



中身を空にしてきれいに洗ってから出してください。



注射針や串、たばこの吸いがらなどは、絶対に中に入れてください。



○ 資源ごみとして出せるもの

空き缶

飲料缶・サラダ油缶・田舎・菓子缶など



空きびん

ワイン・ジュース・調味料・シヤムなどのガラスびん



ペットボトル

下図のマークがついている、飲料・しょう油用ペットボトル



× 不遇物・異物とみなされるもの



包丁



スプーン・フォーク



一斗缶



針金ハンガー



スプレー缶・カセットボンベ



蛍光灯・電球



容量80%、重量80%、コップ、一斗缶、水圧調整器、掃除機、掃除機、予てお断りします。



たばこ・ソース・マヨネーズ・調味料・サラダ油・レトルト食品・果実・ソフトクリームなどがペットボトルやガラスびんに入ると、資源ごみとして回収できません。



リポーター：佐藤明子

高島屋京都店の紳士スーツリサイクル、 今年は協働作戦で

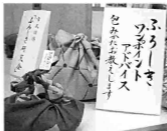
好評のスーツ・リサイクル、 環境月間に定着

昨年に引き続き、今年も高島屋京都店の紳士スーツ・リサイクル回収が実施された。スーツを持参してもらい、回収して、自動車の内装材などにするためのリサイクル費用を高島屋が負担するこの取り組みは、昨年度は総回収数（京都店・洛西店の合計）が10,329着にもものぼり、利用者の反応も上々だった。「ぜひ来年も」という声に応じ、今年も同店1階に回収カウンターを設け、次々と持ち込まれるスーツの対応にあたった。「思い出のこもったスーツは簡単には捨てられない」という市民の思いを汲むように、高島屋のスタッフは一着ずつ丁寧に受け取っていく。入り口付近という場所の効果か、リサイクルの様子を見て、「今度持って来るわ」と声をかけていく人の姿も。

「新しい」エコグッズ、 ふるしきの魅力と活用

この紳士スーツ・リサイクル回収に、今年も新たな助っ人が登場した。1992年の創立以来、独自の視点から環境に配慮した暮らしを提唱してきた、ふるしき研究会である。

昨年度の期間中、4～5割もの人が不要の紳士服をふるしきに包んで持参したことに着目し、今回の協力体制が生まれた。ふるしきはくり返し使うことができるため資源の無駄を省き、かつ使い勝手が良い。「スーツなどの重い荷物も工夫して運ぶことができるんですよ」と代表の森田知都子さん。



同研究会は、スーツ回収カウンターにふるしきのワンポイントアドバイスコーナーを設け、スーツを持参した人や、ふるしきに足を止めた買い物帰りの人に、便利でおしゃれなふるしき活用術を伝えた。

また、期間中の3日間、午後2回に分けて行われた「ふるしきの包み方教室」では、実用的なスイカ包みからエコバッグまで、ふるしきの幅広い用途を紹介した。

「繊維の町」京都で広がる リサイクルの輪

リサイクルするために持参するスーツを、くり返し使えるふるしきで包む・・・ものを大切にする伝統的な京都の慣習と、ユニークな研究会の活動との連携は、一歩進んだ環境保全運動ともいえる。市民と地域、そして企業との協働による取り組みは、一企業のイベントの域を超える、力となるのかもしれない。「活動を継続して行うこと、なかなか進まない繊維リサイクルへの問題提起を続けること。それが重要」と、この事業を推進してきた高島屋京都店総務部の丸山郁夫さんの中には次への展望が視座にあるようだ。

衣料品を販売する企業と、ふるしきという布を用いて環境保全を訴える市民団体が、「繊維の町」京都で始めた新たなリサイクル活動。多くの市民を巻き込みながら、循環型社会の実現に向けてのひとつのステップとなったようだ。なお、この事業へは京都の企業もボランティアとして協力、2週間で8,140着（洛西店含む）回収した。

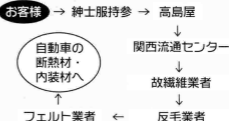
◎高島屋紳士スーツ・リサイクル回収について

6月を環境月間と位置づけ、市民から不用になった紳士スーツを回収し、リサイクル費用を高島屋が負担する取り組み。今年も京都・洛西店（期間：6月16日～30日）および大阪・泉北店（同：6月15日～28日）で実施された。

◎繊維リサイクルの現状

繊維製品の99年度総消費量は232万トンで、総排出量は208万トン。このうち再利用量25万トン、再使用量（リユース）は17万トンであり、循環利用は十分とは言えない状況にある。

◎高島屋紳士服リサイクルの流れ



会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回もヘルプの活動を取材しました。

取材：佐藤明子



22年前に開設した
一乗寺本店店頭



産地を明記し、むき出して店頭に出る野菜

株式会社 ヘルプ

Q 自然食品店の草分け的存在ですね？

A 「安全な食物をより安く、広く」を社是とした会社を設立し、22年前に一乗寺本店を開店。その5年後に長岡店を開店しました。また、オーガニック小麦を用い、素材・製法にこだわったパンが並ぶベーカリー「レ・ブレドオ」も運営しています。店舗の運営以外では、コンサルティング事業、トラベル事業なども展開させており、今日に至っています。

Q ヘルプの食品・食材が人気ですが？

A 生産者側には「より安全な作物を作りたい」という思いがある一方、販売ルートの確保が難しいという現実があります。当社では社員が直に産地を訪問して、生産者の声に耳を傾け、作物が作られる背景を知ったうえで仕入れを行っています。昨今、食に対しての不信任感が広がっていますが、当社では社員に現地で研修を課し、お客様に生産者および産地などの食品情報の開示を積極的に行っております。無農薬・減農薬の農産物には規格を設けず、安心・安全・新鮮・美味と四拍子揃った商品をお客様に提供しております。

Q ごみ減らしたためにどのような取り組みを？

A 当店では、廃食用油・牛乳パック・びん・食品トレイの回収を10年以上前から実施。また、包装材にも配慮し、ペットボトルではなくびん入りの商品を、発泡スチロール製ではなく紙トレイを用いています。オリジナルのエコパックを販売、買い物袋も有料化するな



取材に応じてくださった小販者三店長

ど、ごみになるものを減らす方針を貫いています。このように取り組むのが認められ、NPO法環境市民による京都市内全スーパーの調査で、環境配慮度第1位の評価を受けました（1993・1999年度）。

Q お客様の反応・反響は？

A お客様はリピーターがほとんどで、環境意識の高い方。つまりグリーンコンシューマーが多いですね。当店では、商品情報ばかりが環境問題の記事を掲示しているため、お客様からは「自然に勉強ができる」と好評です。さらに、レジでは食品や環境に関する情報をチラシとして配ったり、各地で開催されるイベントや、学会などのお知らせを置くコーナーを店内に設置し、お客様の「知りたい」という声に応えています。

Q リニューアルオープンのご予定が？

A 店舗拡大に伴い、一乗寺本店は8月14・24日までお休みをいただきます。同26日にリニューアルオープンする予定です。商品、特に農産物のひとつひとつに産地と生産者を明記するなどの、さらなる安心・安全な食の提供をしていきたいですね。



レジ袋有料は10年以上前から実施。1枚5円。



廃食用油、紙パック、びんを10年以上前から店頭回収

Q 今後の展開は？

A 当店では開店22年目を迎え、取引のある生産者の後継者不足・農村の過疎化などの課題も抱えています。そんな中で、グリーンコンシューマーを育て、お客様と生産者とをつなぐ「食」文化の担い手でありたいと、様々な団体と協力しながら、環境へ配慮した店づくりを徹底したいと思っています。

株式会社ヘルプ

本社所在地：京都市左京区一乗寺高瀬町10-1
TEL：075-781-2880 FAX：075-706-2325
URL：http://www.wskkaka.com/index.html
代表取締役：宗接 元信
設立：1982年（昭和57年）5月25日
資本金：3,000万円（2005年6月30日現在）
従業員：社員15名。パート・アルバイト70名
（2005年6月30日現在）
店舗：一乗寺本店・長岡店・レ・ブレドオ
（直営ベーカリー）
事業内容：無農薬・有機栽培農産物、無添加食品の
小売・卸。その他コンサルティング事業、トラベル事業、
パンの製造・販売など

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

油の回収は発足前から プラ分別でごみは三分の一に

朱雀第二学区地域ごみ減量推進会議（中京区）

組織の発足は昨年だが、油の回収は2年前から。女性会の集まりで他学区での回収の話聞いた役員が提案。独自に回収業者に依頼、チラシを回収し、町内7カ所で回収を開始した。昨年、朱雀第二学区地域ごみ減量推進会議として再スタート。拠点は1つ増えて8カ所に。PTAが行う古紙回収と同日、同場所のため地域に浸透しやすかった。回収時間前に持参する人もいるため、場所によっては朝6時半からポリタンクを出すなど、細やかに対応している。

同会山岡会長は自治連会長も兼任とあって、学区全体への呼びかけも円滑だ。女性会会長の八木好子さんが代表を務め、経験を生かし、活動に手腕を奮っている。

同会は昨年秋から始まったプラスチックの分別収集にも積極的に協力。市の講習も受けた。分別を始めて「日常のごみの量が三分の一くらいに減って驚いた」と役員さんたちは口をそろえる。その他、毎年学区全体で開かれる「ふれあいまつり」でフリーマーケットを行うなど、地道にごみ減らしに取り組んでいる。

後ろ左から木村さん、八木代表、村さん、前左から山岡さん、井野さん



駅前地下の集約。この日は車をしかけて

- ◆会長：山岡政一郎
- ◆代表：八木好子
- ◆発足：2004年（平成16年）4月
- ◆学区世帯数：2017世帯
- ◆使用済み天ぷら油の回収：拠点は8カ所。毎月第2水曜日、午前8時半～11時。

取材：岡 かおる

準備から回収開始までわずか1カ月 マイバッグ配布や堆肥作りにも挑戦

京極地域ごみ減量推進会議（上京区）

7年前、当時女性会会長だった安藤朝江さんは、地域住民から直接要請を受け、使用済み天ぷら油の回収を役員に提案。全員一致で賛成を得られ早速回収の準備に取りかかった。

まず女性会の会報誌や地域の新聞で学区内に周知。拠点は4カ所、月一回の体制を整え、ひと月経たないうちに回収を開始した。拠点のうち2カ所は会員宅でもある店舗（酒店とコンビニ）の協力を得、今も店頭で回収を行っている。「（拠点が）無人のため時々油汚れが気にかかるが、今や回収は地元に着落してきた」と会長の安藤さん。

同会ではこれまで、マイバッグ普及のため布袋の配布や出町商店街でのトレイ回収協力などさまざまな活動に取り組んできた。中でも生ごみでの堆肥作りは会員30人が熱心に取り組み、今も数人が続けている。ごみ減量に必要なのは資源ごみ分別の徹底と生ごみ対策だが、「街なかで続けるにはやはり臭いや手間が課題」という。最近の悩みはカラス。散乱を防ぐ方法を思案中だ。



酒店の拠点前で、後列に安藤会長（右）と生駒さん。前は稲本さん。

- ◆会長：安藤朝江
- ◆発足：1999年（平成11年）7月
- ◆学区世帯数：1867世帯
- ◆使用済み天ぷら油の回収：拠点は4カ所。毎月第3水曜日、午前9時～午後2時。

取材：岡 かおる

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

女性会のつながりと 古紙回収との連携で地域に浸透

福西ごみ減量推進会議（西京区）

長年、環境問題に取り組んできた女性会を母体に1年前発足。立ち上げ前には廃食用油の勉強や他学区への見学も行った。女性会の役員を中心に月に1回廃食用油と古紙を同日に回収。同日2種類の回収は負担のように見えるが、住民への周知は、効果的だそう。毎月の定例会や情報紙「おたより」



を通して回収日を知らせている。回収日には担当者が2名ずつ交代で立ち会い、油を持ってきた人に京都市推奨・資源用ごみ袋を1枚配布するなど、啓発も行う。

昨年12月の学習会では「生きびん」について学び、

近くのスーパーに「生きびん」回収拠点ボックスの設置を実現させた。その他、学習会や堆肥作り、施設見学、マイバック運動、毎月30日は「ごみゼロ」を掲げ、周辺の清掃活動を行っている。

今後はPTAとの交流に力を注ぎたいと、昨年福西小学校新一年生にリサイクル工作としてタオルでつくった交通安全のマスコットをプレゼントした。「経験をいまして、もっと活動を広げたい」と、三好悦子会長は意欲的だ。



- ◆会長：三好 悦子
- ◆発足：2004年（平成14年）4月
- ◆学区世帯数：約1000世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点は5カ所
毎月第3水曜日
- ◆古紙回収：同上

取材：田中真砂世

学習会や見学会を重ね、 仲間て明るく活動中

桃山南ごみ減量推進会議（伏見区）

山科川と宇治川の合流地点に程近い桃山南地区。一昨年の秋、使用済みてんぷら油の回収を始めたが、女性会のメンバーが中心となった役員会の積極的な広報活動が実り、現在、回収拠点は17カ所に。

回収日当日は生憎の雨だった。それでも回収率が高まるまで待機し、業者の方に「ご苦労様」と声をかける役員の方々が、思いやりの声で潤滑油になるのだ。

「もっと回収拠点を」と話す三澤会長。自治会に参加していない団地住民への呼びかけが課題だという。伸び悩みの要因は「最近、てんぷらをする家庭が減っているから」とも。

同会は、使用済み油の回収のほか、環境学習にも熱心で、総会で年間の活動方針を決め、毎月1回の役員会で実施している。施設見学会も行って、近く市の廃食用油燃料化施設（伏見区）に出向くとか。「環境を守るためなら」との姿勢を貫く活動に注目したい。



- ◆会長：三澤久江
- ◆発足：2003年（平成15年）11月
- ◆学区世帯数：3,250世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点は17カ所
毎月第1金曜日、午前9時～10時
- ◆乾電池の回収：同上
- ◆古紙回収：毎月第2木曜日

取材：佐藤明子

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.29

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2005年（平成17年）8月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局 地域環境政策部 循環型社会推進課内
TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453
京エコロジーセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会（合報誌・ホームページ小委員会）
滝川 美鈴・林村 翠弘・嶋野 貴生・大橋 正明・岡 かおる・小野 貴志・佐藤 明子・野村 直史・森田 知都子・山本 史史

事務局：近藤 烈・田中 真砂世

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいまち暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） 1口1千円
専門家（学識経験者等） 1口1千円
地域ごみ減量推進会議 （年間1口以上）
大学・マスメディア・事業者団体 1口1千円
企業等・行政 （年間2口以上）

詳細は、事務局へお問い合わせください。